



ワクチン感謝広告（東京駅丸の内地下中央口）

日台稲門会 ニュースレター 9月号（2021年9月11日発行）

会報担当：橋本紀明／hashimoto.inforia@gmail.com

日台稲門会会員・会友の皆様

日台稲門会ニュースレター9月号をお届けします。
（10月の早慶ゴルフ募集欄も見てください）

1. ご挨拶 （三村会長）

いつも日台稲門会ニュースレターをご覧いただきありがとうございます。
コロナ禍が収まらない中ではありましたが、オリンピックでのアスリートたちの活躍はとても印象的でした。現在開催しているパラリンピックでのアスリートたちの活躍にも大いに期待したいと思います。
なお、当方の記載記事内容につきまして、会員（会友）読者の方からご意見がありましたので本ニュースレターの最終欄に当方の考えを記載しましたのでご覧ください。

2. 台湾相撲協会の李明峻理事長記事（産経新聞より）

2019年と2020年に当稲門会で講演をお願いしたが、台風、新型コロナの為、開催できなかった、台湾相撲協会の李明峻理事長の日本からのワクチン供給への謝意と東京オリンピックにかける李理事長の夢（記事）が記載されていましてので紹介します。（記事は全文、産経新聞（7/23）から）



（李明峻理事長）

コロナ禍のため、緊急事態宣言下で実施される東京五輪。準備作業などは私たちの想像を超える難しさがあったと考える。関係者の皆さんの努力に頭が下がる思いだ。

近年、台日関係は非常に良好で、特に日本から3度にわたって台湾に計330万回分以上のワクチンを支援してくれたことに多くの台湾人が感動している。

3回目のワクチン97万回分が台湾に到着した7月15日夜、台湾の最も高い建物「台北101タワー」の外壁に「東京五輪の成功を祈る」との文字が点灯された。台湾の民衆の気持ちを代弁しているメッセージといえる。東京五輪をぜひ成功させて、「人類がコロナウイルスに打ち勝った証にしてもらいたい」と多くの台湾人は心から願っている。

コロナ禍前の2019年、台湾の総人口の約5分の1にあたる延べ489万人が観光客として訪日した。多くの台湾人は東京五輪を楽しみにしていて、期間中に訪日して直接観戦することを計画していたが、コロナのため行けなくなったことは本当に残念だ。東京五輪に出場する台湾選手団は計68人。アジア大会などで優勝経験を持つバドミントン女子シングルの戴資穎選手を含め、重量挙げなどの種目でメダルが期待できる選手は複数いる。テレビを通じて台湾選手と日本選手にエールを送りたいと考えている。

個人的に残念に思っていることは、せっかく日本で開催される五輪なのに、相撲が競技種目になれなかったことだ。私たち日本留学経験者は台湾で相撲を普及させようといろいろと努力しており、ここ数年、各地域で相撲協会が相次いで成立するなど、人気が高まりつつある。コロナ禍が落ち着いたら、日台でアマチュア相撲の交流イベントを開催したい。
(台北 矢板明夫(産経))

3. 台湾、東京オリンピックで史上最高のメダル獲得

■メダル総数12個 (金2、銀4、銅6) (敬称略) (写真: Yahoo Japan より)

金

- ・ウエイトリフティング女子58kg級 郭婞淳
- ・バドミントン 男子ダブルス 李洋、王齊麟



郭選手



李選手 ・ 王選手

なお、バドミントン男子ダブルス決勝では、李洋・王齊麟ペアが強敵の中国の李俊慧・劉雨辰ペアを2-0で下し、バドミントンで台湾に五輪初となる金メダルをもたらした。

銀

- ・柔道男子60kg級 楊勇緯
- ・アーチェリー 男子団体 鄧宇成、湯智鈞、魏均珩
- ・バドミントン女子シングルス 戴資穎
- ・体操男子種目別あん馬 李智凱



楊選手



郭選手



湯選手



魏選手



戴選手



李選手

銅

- ・ウエイトリフティング女子 64kg 級 陳玫卉
- ・卓球 混合ダブルス 林昀儒、鄭怡靜
- ・テコンドー 女子 58kg 級 羅嘉翎
- ・ゴルフ男子 潘政琮
- ・ボクシング 女子フライ級 黃筱雯
- ・空手 女子組手 55kg 級 文姿云



陳選手



林選手



鄭選手



羅選手



潘選手



黃選手



文選手

得意なテコンドー、ウエイトリフティング、アーチェリー、卓球でメダルを取り、そして今回、初めて柔道、体操、空手でもメダルをとった。新しい流れになりそうだ。またプレーオフで日本の松山選手を含む6人をやぶった潘選手は特に強そう。今後、世界での活躍が期待される。

4. 台湾、パラリンピック情報

東京パラ開幕、台湾チームは 83 番目に入場

東京パラリンピックが 24 日夜、開会式では台湾代表チームは 83 番目に入場。、「韓国」の後、「タジキスタン」の前に入場。旗手を務めた、陸上競技の視覚障害クラスに出場する楊川輝選手、劉雅婷選手を筆頭に、総勢 11 名のメンバーが、東京オリンピックと同じオフィシャルユニフォームを身に纏い入場行進を行いました。台湾チームが入場する際、会場では「チャイニーズ・台北」とアナウンスされましたが、東京オリンピック同様、NHK の中継では「台湾です」と紹介されました。(8/25 中央廣播電臺)



(写真：中央廣播電臺)

■パラメダル数 1 個 (銅 1) (敬称略) (写真：Yahoo Japan より)

銅 ・卓球女子シングルス (立位 10) 田 曉雯

卓球女子シングルス (立位 10) で田曉雯選手が銅メダルを獲得されました。おめでとうございます。



田選手

卓球では、車いすクラス(1-5)、立位クラス(6-10)、知的障がいクラス(11)に分けられ、数字が小さい方が障がいの程度が高くなります。

5. 最近の台湾関連ニュース

■国会での中国による人権侵害への非難決議案国会での採択不採用に。(産経 6/15)

■麻生副総理、中国が台湾侵攻の場合、集団的自衛権を行使し台湾防衛できると (産経 7/6)

■安倍前首相訪台に意欲を示す (産経 7/29, 30)

■「李登輝図書館」設立へ 母校台湾大学に (産経 7/30)

■ワクチン無償提供に対し台湾から感謝メッセージ広告（7月末、冒頭写真）

■鳩山元首相、国際アジア共同体学会のシンポジウムで『日本も尖閣領海内に入るべきでない』と（7/31 産経）

■中国の王毅外相、7月28日に天津でタリバン幹部と会談（7/29 産経）

（その後（参考））王毅外相、1月11日ミャンマー軍司令官と会談 ⇒半月後クーデター
王毅外相、7月28日天津でタリバンと会談 ⇒ 8/15 カブール陥落

■サモアの女性新首相就任、中国支援の港湾開発中止を表明（8/4 産経）

■クウェート英字紙、台湾外交部長の発言を削除（8/4 産経）

■米、台湾に自走榴弾砲40両（約820億円）を売却へ（8/4 産経）

■麻生副総理、中国の台湾掌握段階を提示（8/6 産経）

■蔡総統、台湾企業、各国と半導体分野人材で協力したいと。（月刊文春9月号）

■台湾がリトアニアに「台湾代表処」（台北経済文化処ではない）開設。
（8/11Nikkei Asia）

■台湾2021年GDPを5.9%（増）と予想（8/14 日経）

■「台湾有事あれば沖縄守る」菅首相、ニューズウィーク誌に強調（8/13 産経）

■東部・台東県南部の南迴で芸術の祭典「南迴芸術季」開催
7月30日より11月14日まで。（8/15 Yahoo ニュース、台湾フォーカス）

■中国、台湾周辺で軍事演習と発表 (8/17 時事)

■野党中国国民党、「アフガンは明日の台湾」と蔡政権に揺さぶり (8/20 産経)

■菅政権、台湾重視——日台閣僚級接触を模索—— (8/22 産経)

■台湾自主開発ワクチン接種開始、蔡総統接種 1 号で安全性アピール (8/23 TBS News)

■ パラ開会式でも「台湾です」と。五輪に続きプラカードも (8/24 Yahoo ニュース)

■講談師の一龍斎貞花さんが、李登輝氏の人生、講談に (8/25 産経)

■台湾、108 日ぶりにコロナウイルス感染者ゼロに。 (8/26 産経)

6. 台湾時代の思い出 (渡邊義典さん、川村淳一さん)

■芝山巖 芝山巖学堂 六士(氏)先生の墓 (その4) (渡邊さん)

芝山巖山上の読書室 (学堂の跡地に建てられている) の裏手には石碑を破砕した破片が散乱していました。その石碑を読んでもみると、日拠時代に台湾で殉職した教員の顕彰碑であると思われます。日本人。台湾人の区別なく姓名が彫られています。

ここは、戦前は教育の聖地として神社が建てられていたので、戦後に壊されて石碑類もすべて破砕されて遺棄されたものと思われます。先号に書いた「学務官僚遭難之碑」(右写真)とその由来を書いた案内板は2004年頃の思い出です。当時は民進党の陳水扁政権の頃でした。その後、2008年に国民党の馬英九政権以降には、「学務官僚」石碑のそばに再び「芝山巖事件之碑」が建っていました。「6人の日本人学務官僚を襲撃した人たちは抗日英雄である」と称えられていました。

戦前の碑と戦後の碑が正反対の内容で同じ敷地内に並立している光景は歴史を考える重い遺跡だと思います。

この敷地から恵濟宮の方向へ進む道の脇に「六氏先生之墓」という黒御影石の立派なお墓があります。日本のお墓と同じ形です。その墓石の下段にそれぞれの名前が刻まれた六

芝山巖学堂から始まって士林国小となり、その卒業生たちが中心となって「六氏先生之墓」を建てて、そして今も墓守をしておられるということにわたしはすっかり感動したのです。

芝山巖 全景

①芝山巖恵濟宮

②同帰所

④六氏先生之墓

③学務官僚遭難之碑
と
芝山巖事件之碑

Google Map より



芝山公園入口
(写真：トラベル JP 吉川なおさん)



①芝山巖恵濟宮、(6月号参照)
(写真：森玄通さん)



②同帰所 (7月号参照) (写真：Google Map)



③『学務官僚遭難之碑』(8月号参照)
(写真：吉川なおさん)



③『芝山巖事件之碑』(8月号参照)
(写真：吉川なおさん)

左：六氏先生を悼む碑(戦前と最近) <=> 右：反抗した人たちの称える記念碑 (戦後)

戦前、哀悼碑が立てられたが、戦後(蒋介石進出後)哀悼碑は廃棄(放棄)され、新たに反抗記念碑が立てられたが、最近(民主化後)また遭難碑が復活し、現在は両立している。



④六氏先生之墓(1995 年 1 月新設時) ④六氏先生之墓 (現在、位牌あり)
(左写真: I Love ASIA) (9 月号参照) (右写真: Wikipedia)

■潮音寺 (川村さん)

台湾島の最南端のリゾート地、バシー海峡を望む猫鼻岬国立公園に近接した高台に「潮音寺」があります。名前をご存じの方もいらっしゃると思いますが、改めてこのお寺をご紹介しますさせていただきたいと考えてこのコラムを書きました。

ちょうど 6 年前、戦後 70 年目にして初めて公式の「バシー海峡戦没者慰霊祭」が台湾で開催されることを知って、私は 8 月の炎天下、喪服を着て汗だくになりながら参列してきました。私の叔父も 1944 年に高雄と小琉球の間の海域で輸送船が沈没して戦死していたので、大規模な戦没者慰霊祭が現地で行われることはありがたい機会でした。200 人近い遺族の方々と一緒に参列したその会場が「潮音寺」でした。

フィリピンと台湾を隔てるバシー海峡は幅 100 キロを超えますが、太平洋戦争中はフィリピンはじめ南方戦線へ向かう日本軍輸送船の主要なルートでした。基隆や高雄などへ寄港した後に南へ向かうのですが、米国の潜水艦の放つ魚雷によって、相当な数の輸送船が沈められたために「輸送船の墓場」と呼ばれたそうです。一説によると、犠牲者は 30 万人近くに上るそうですが、軍事機密ということで正確な記録もなく、戦没者の名簿も作成されておられません。

この「潮音寺」は、早稲田大学文学部を中退されて兵役に就かれた中嶋秀次氏が、この海域での戦没者を弔う目的で、ご自身の半生と私財を投じて建立されたものです。中嶋氏は、1944 年 8 月に乗船した新鋭輸送船「玉津丸」が魚雷攻撃を受けて沈没した後、12 日間に及ぶ漂流を経て奇跡的に生還された方です。「玉津丸」には船員含め五千人近い人々が乗っていましたが、十数名しか救助されず、無事に帰国できたのは数名だったという話です。戦後、中嶋氏は強い思いをもって戦死者の慰霊事業をすすめられ、40 年前、私財と集まった浄財をもとに「潮音寺」を建てられてからは、日本からの慰霊団を迎えたり、慰霊のための寺の維持管理を続けられました。2013 年に 93 歳で亡くなりましたが、亡くなる直前にノンフィクション作家の門田隆将氏の取材を受けられており、その生き方と慰霊への思いは、門田氏の著作「慟哭の海峡」(角川書店)に記されています。

その「潮音寺」は、2 階建ての白亜のコンクリート製の寺で、2 階中央に仏像、外には慰霊碑などがありますが、中嶋氏の死後に傷みがひどくなったため、何度か修復が行われています。現在は台湾の方々の善意による管理、日本や台湾各地からの寄付によって創建時のようなきれいな姿となっていますが、一時はひび割れ、天井の一部崩落もあり、崩壊の危機にも瀕しました。「潮音寺」付近の海岸は、台湾の若者のリゾート地となって素晴ら

しい景色が広がります。しかし、戦時中、沈没した輸送船からの名も知れぬ日本兵の遺体がたくさん打ち上げられ、台湾住民の方々の手によって埋葬された事実を、私ども日本人は忘れてはならないと思いませんか。（川村淳一）



観音像



潮音寺 （左右写真：「戦没者慰霊碑巡り」より）

7. 経済ニュース（劉彦甫さん）

今月の劉彦甫さん（WTA 出身で現在東洋経済新報社記者）の署名記事をご紹介します。

（劉記者の記事は、下記サイトを参照）

<https://toyokeizai.net/list/author/%E5%8A%89+%E5%BD%A6%E7%94%AB>

今月は4本紹介します。

■中国が悲願の「台湾統一」へ使い分ける2つの手段

軍事行動に限らず現地協力者を通じた迂回策も（8/19 東洋経済）（劉彦甫、山崎理子）

7月1日、中国共産党の創立100周年記念式典で習近平総書記は「祖国統一の大業」と位置づける台湾統一を「歴史的任務」と強調し、その実現に執着する姿勢を再度示したが、これについて、台湾経済に詳しい川上桃子・日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所地域研究センター長が詳しく述べています。詳細は下記サイト参照。



https://toyokeizai.net/articles/-/449296?utm_source=author-mail&utm_medium=email&utm_campaign=2021-08-20

（写真：川上さん提供）

■新社長が「過去」を研究し続ける真意

停滞続く巨艦が松下時代から失ったものは何か(7/29 東洋経済) (劉彦甫)



6月に就任したパナソニックの楠見社長(左)は、今のパナソニックには「松下時代」にあった現場力や競争力が失われていると分析する(右写真: ヒラオカスタジオ撮影、左写真: パナソニック提供)

詳細は右記サイトで。

<https://toyokeizai.net/articles/-/443998>

■パナソニック、逆風吹く社内で「巨額買収」の攻防 (前編)

相次ぐ幹部の慎重論に「新旧社長」が下した決断(8/16 東洋経済) (劉彦甫)

2021年にアメリカのソフトウェア企業「ブルーヨンダー」を71億ドル(約7800億円)で買収するパナソニック。その過程について前編、後編で説明。

前編は下記サイトで。

https://toyokeizai.net/articles/-/448190?utm_source=author-mail&utm_medium=email&utm_campaign=2021-08-17

■現場を見て「腹落ちした」自らのビジョンとの関係 (後編)

パナ新社長「就任目前」で巨額買収に同意した胸中(8/17 東洋経済) (劉彦甫)

後編では、「ブルーヨンダー」という巨額買収に同意した楠見雄規新社長の心中に迫っています。詳細は、下記サイトで。

[https://premium.toyokeizai.net/articles/-](https://premium.toyokeizai.net/articles/-/27814?_ga=2.199689774.1040412948.1629274157-1650751520.1552617307)

[/27814?_ga=2.199689774.1040412948.1629274157-1650751520.1552617307](https://premium.toyokeizai.net/articles/-/27814?_ga=2.199689774.1040412948.1629274157-1650751520.1552617307)

■「パナ傘下入り」に懸けたソフトウェア企業の思惑

パナソニックの買収受け入れ決めた3つの期待(8/23 東洋経済) (劉彦甫)



なぜ、ブルーヨンダーはパナソニックの傘下に入ったのか、CEOのギリッシュ・リッシュがそれに対して考えを述べています。

(左写真: ヒラオカスタジオ撮影、右写真: パナソニック提供)

詳細は下記サイトで。

https://toyokeizai.net/articles/-/449563?utm_source=author-

8. 台湾映画紹介

■『返校 言葉が消えた日—Detention』(徐漢強 (ジョン・スー) 監督)

7月30日より全国ロードショー。「2017年に発売された台湾の大ヒットホラーゲーム「返校」を実写映画化」(映画.COMより引用)。映画の構成は、第一章『悪夢』、第二章『密告者』そして第三章『生き残った者』。映画は、1960年代の国民党政権下の白色テロ時代の台湾の高校を描いている。主人公、方と後輩、魏、そして張・殷先生。返校とは、夏(冬)休みの登校日のこと。映画を観ていて不思議な気分になった。映画と香港の現状(将来)がダブったからだ。冷戦終了後、旧東ドイツ地区では冷戦下の密告記録が公開され、知り合いが、かつて自分の



密告者だったことが分かるということが起きた。信頼していたのに、陰で自分を密告していたとは・・・と。他人を信用できない社会、それが独裁国家。映画の舞台1960年代、台湾人の心の支えは、日本だったのではないかという気がした。それに対して当時の日本は、どこまでその期待に応えることができたのだろうか。今、香港人の心の支え(同志)は台湾のような気がした。香港の人に対して言えるのは、映画での張先生の言葉で、『(あきらめるな。)生きるんだ。生きとおせば、未来に自由が待っているのだ』ではないかと思った。日本人として香港に何ができるのだろうか、自問自答した。

9. 注目の台湾関連新刊本紹介(6、7月発売)

■『台湾有事 どうする日本—2027年までに中国の台湾侵奪はあるか—』(東アジア情勢研究会)(方丈社)(7月29日刊)(税込1,760円)

台湾有事が現実のものとなれば、日本は対岸の火事です。すまずことはできない。日本と台湾はどう備えるべきなのか。8人の論客が、防衛、政治、経済、日台間の民間交流の在り方を大胆に提言する。

寄稿者には、謝長廷氏(台北経済文化代表処代表)、河崎眞澄氏(産経新聞論説委員)、早川友久氏(元李登輝総統日本人秘書)等。



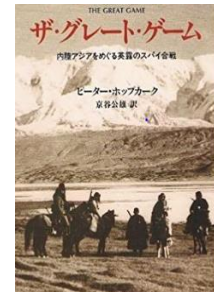
■『中国共産党 暗黒の百年史』(石平)(飛鳥新書)(税込1,540円)(6月29日刊)

日本では、中国(大陸)の現代史は、悪者蒋介石国民党に対する農民(正義)の味方毛沢東共産党として書かれているが、毛沢東、周恩来を始めとする共産党幹部が自己顕示欲のため、如何に人命(同僚も)が犠牲になったか、100年にわたる共産党下の陰謀や裏切り、粛清、残虐などの歴史を詳細に書かれている。中国共産党の本質は「政権は銃口から」。一読の価値あり。



■『ザ・グレート・ゲーム』（ピーター ホップカーク）

今から 30 年ほど前に出版された本であり、今では図書館でしか読めないと思うが、アフガンの地政学的意義を考える上で参考になる一冊である。私は数年前に日本山岳会市ヶ谷本部事務所で借りて読んだことがある。19 世紀初頭から 20 世紀初頭にかけて南下政策で占領したいロシアとイギリス（植民地インドの防衛）の対立舞台になったアフガニスタン。本の冒頭、「アフガンは地政学的にインドよりもはるかに重要だった」と書かれていたことが印象的である。アフガンは、中東レバノン（シリアとイスラエルの対立の舞台）というよりもベトナム（戦略的持久＝負けない限り勝ち）に近いかも知れない。



10. 日本の中の台湾

■新宿御苑内の台湾閣

1989 年に新宿御苑で昭和天皇の大喪の礼が挙行されたが、苑内には大沢在昌の『新宿鮫Ⅱ—毒猿 (Du Yuan)—』にも登場する台湾閣（旧御涼亭）がある。都内の公園はほとんどが都営だが、この新宿御苑は国営（環境庁管轄）。御涼亭は、昭和 2 年に昭和天皇のご成婚を記念して台湾在住の邦人が寄贈したものだそう。名前の通り、中に入ると外の暑さを忘れてしまうほどで、故宮博物館の喫茶室を思い出し、美味しい台湾の烏龍茶を飲みたくなった。



（地図：一般財団法人国民公園協会）



入口横の窓壁に『於物魚躍（物に於いて魚躍れり）』（元気に躍動を。天皇を称える）の文言。



近くの代々木ドコモタワーが見える

1 1. 秋季早慶ゴルフ大会

恒例の秋季早慶ゴルフ対抗戦を下記要領で開催します。

コロナの影響が残る状況ですが、ゴルフ場では感染防止対策を実施しており、幹事団もマスクの着用やその他防止策をとりながら感染リスクを抑えて実施するように心がけたいと考えておりますので、奮ってご参戦ください。

参加希望の方は、幹事(根本：koji050857@gmail.com)までご連絡ください。

(参加予定者：慶応 12名 早稲田 12名)

1. 日時：令和3年10月1日(金) 9:00 集合
2. 場所：習志野 CC Queen コース イン・スタート 9:10~9:45 (6組)
<https://reserve.accordiagolf.com/golfCourse/narashino/>
3. 費用：約16,000円(税込み、食事付、キャディーなし)
その他、会費を徴収して団体戦、個人戦(ダブルペリア方式)を実施します。

編集後記

■開催が危ぶまれた東京オリンピック。無観客といえ、開催して良かったと思った。中止だったら、コロナに負けた大会として人々の記憶に残っただろう。開催直後、新聞やインターネットで、各国別メダル数欄に ROC という文字を見て、一瞬、台湾かと思ったが、ロシアだった。日本チームでは、半分かくらいの競技で外国出身か帰化した親を持つ選手が目立った。同様に日本が得意な競技では外国に帰化した元日本人選手や日本チームの外国人監督・コーチも目立った(逆もあり)。個人的には、台湾が柔道で銀、空手そして伝統のゴルフで銅メダルをとったことが、一番うれしかった。将来、冒頭の李明峻理事長が言われる通り、相撲が競技になるかも。その時は、モンゴル国旗がはためくか。(橋)

=====

■複数寄稿の指摘を受けて（日台稲門会 会長 三村達）

▼匿名の会員からのメールの内容

先だって、当会の会員から匿名で、当会に宛てて次のようなメールが来ました。当会の小川英郎幹事が、会報やニュースレターに投稿した記事は、小川幹事が会長を務める「東京台湾の会」や、同幹事が理事となっている「日台政策研究所」の各会報にも掲載されているという「複数寄稿」であるということです。また、一部は盗作・剽窃というもの（詳細は後述）。そしてメールは、この許されない行為は会の存続にも関わる重大問題で、謝罪文を会報やホームページに掲載するよう強く望むといった内容を記しています。

▼「複数寄稿」の詳細

1) 当会の会報 20 号（2018 年 12 月発行）に掲載された〈野島剛著『タイワニーズ——故郷喪失者の物語』〉の書評は、一部文言に相違はあるものの、同様の内容のものが、東京台湾の会の会報『台湾研究資料』84 号（2020 年 6 月発行）や『日台政策研究所会報』2 号（2021 年 3 月発行）に掲載されています。

2) 当会の会報 21 号（2021 年 1 月発行）に掲載された 2020 年の総統選の観察記は、前掲の『台湾研究資料』84 号と『日台政策研究所会報』創刊号（2020 年 7 月発行）に、同様のものが掲載されています。

3) 当会のニュースレター 2021 年 8 月号に掲載された「講演会感想『のび太としずちゃん』」は、『台湾研究資料』87 号（2021 年 7 月発行）に同様のものが掲載されています。

▼「複数寄稿」について

上記のメールにあった「複数寄稿」は、一般には「二重投稿」「重複掲載」という言葉で語られるもので、学術的精査が行われる学術論文においては厳しく禁止されています。とはいえ、公的機関や専門組織によるガイドラインといった広く知らせる必要のある論文など、一定の条件を満たしたものの重複掲載は許容されています。

一方、多様な在り方を呈する一般的な記事では、学術論文ほどの明確な規定あるいは共通認識といったものはありません。しかし、学術論文に準じて、また常識に照らして、「二重投稿」は行うべきものでないのは異論はないものと考えます。そしてまた、行事の告知や報道に関するものなど、学術論文同様、重複掲載が許容されているものもあります。

▼「盗作・剽窃」について

上記のメールで、小川幹事が「盗作・剽窃」としていると指摘した部分の原文を引用すると、・・・「のび太としずちゃん」に至っては小川さん自身も認めているように河崎真澄さんの言説のパクリであり小川さん自身の言葉がほぼないです。これはまさにパクリ・盗作・剽窃というもの（下略）・・・というところです。

これに小川幹事が書いた原文を対比させてみると、・・・ここでは河崎氏お得意の『北東アジアの構造をドラえもん登場人物になぞると・・・』を紹介します・・・という部分だけが該当するように考えられます。（ニュースレター 8 月号を参照してみてください）

さて、「盗む」とは、他人のものを自分のもとすることです。小川幹事が『のび太としずかちゃん』という産経新聞論説委員の河崎真澄氏が考えた比喻を、自分が考えたものとして記事にすれば「盗作・剽窃」ですが、小川幹事は河崎氏の考えだと明示しているのですから、「盗作・剽窃」には当たらないと考えます。

もう一つ、メールでは、・・・野嶋さんのタイワニーズ書評についても、自身で福田円先生のパクリであると認めています・・・とあります。小川幹事の原文は、その書評の出だしに・・・「日本と台湾をつなぐものは『人』である」（改行）いきなり日経書評の福田円 法政大学教授の文章を引用してしまった！俗にいうパクリだ。・・・という記述があります。ここで小川幹事が書いた「パクリ」という言葉は、質の良し悪しはさておき、「ユーモアや冗談」のたぐいであることは明らかなです。よって、メールを送ってきた匿名の方が指摘した「盗作・剽窃」の事実、ないものと考えます。

▼小川幹事への聴き取りなど

上記を踏まえて、当の小川幹事に事情を訊いてみました。いろいろ話しましたが、要約すれば、小川幹事は「学术论文でもなく、一般記事の二重投稿がそこまで厳しいものとは考えていませんでした。認識不足を深く反省しています」とのこと。

上記メールには、小川氏の幹事としての適性を疑うような記述もみられましたが、部分的な認識不足はあったとはいえ、そのほかの点で当会幹事として不適格なところがあるとは考えていません。

▼編集側にチェックは可能か

上記のメールには、・・・【メールの匿名の方は当会について】台湾との政治レベルの交流パイプもある団体だと思っています。（中略）【今回のトラブルが台湾政府側に知られたら】内容チェックもしていない会報を作っている団体として交流を打ち切られるほどの大きな問題だと思います・・・とありました。編集側の「二重投稿」へのチェックに関して、日本の出版界で40年以上のキャリアがあり、台湾発行の月刊誌『な～るほど・ザ・台湾』の編集長および顧問でもあった当会の梶山憲一幹事長はこう語りました。

「原稿内容のファクトチェックは行っていますが、多様な媒体があるなか、二重投稿のチェックはかなり困難だといわざるを得ません。匿名でメールを送ってくださった方は、当会ほかの二団体の会員等でいらっしゃるからお気づきになったのでしょうか、そういう人は実は少なく、チェックは限定的にしかできません。二重投稿の防止は、投稿者の良識に頼るしかないのが現状です」と。

そして、「交流を打ち切られるほどの大きな問題」という点に関して、梶山幹事長は、「当会がずっと築いてきたパイプはそれほど細いものでもないし、現在の幹事らが個人的にさまざまな方面で築いてきたパイプもあります。私も30年以上に亘って築いてきた官民それぞれのパイプがあります。今回のトラブルに適正な対処をすれば、大きな問題になることは考えられません」と語りました。

▼現時点での対処

そこで、今回の事態に対する現時点での対処について記します。

1) まず、今回、匿名のメールによってご指摘にあった多重投稿が起こったことは、当会の活動について主導的な立場にある会長・幹事会として深くお詫びいたします。

2) その問題となった、多重投稿された小川幹事執筆の記事は、売名行為的な内容があるとは考えられず、今後はこうした多重投稿は行わないという前提の下、上記の《「複数寄稿」の詳細》に記したことを、会員・会友向けの複数掲載の注記としてご了解ください。

3) 小川幹事幹事からも申し出がありましたが、同幹事の当会の会報およびニュースレターへの投稿は、当面のあいだ禁止とします。

以上を当会の今回の事態への対処とします。

▼今回の事態への考え

まず第一に、われわれは、さらに成長というか、広い視野に立っていかなければならないというを感じます。

さて、学術研究者が主体の「日台政策研究所」では、「二重投稿」を禁止する会則があるそうです。しかし、当会では「二重投稿」の禁止を会則にするつもりはありません。稲門会の下に集った、良識と誇りある自立したわれわれは、こうした問題は易々と乗り越えていけると思うからです。

いま日本をめぐる状況、台湾をめぐる状況、それぞれに固有の問題のほか、共通した困難もあり、さらに日台は連携を深めねばなりません。

そしてわれわれは、稲門の徒として、こうした事態を乗り越えられるよう、本来もっている力をさらに発揮してゆきたいものです。

日台稲門会会長 三村 達

=====